

---

# 稲尾岳自然環境保全地域調査(1985年度)

(環境庁自然保護局 / 受託者：財団法人 国立公園協会)

---

キーワード：気候調査、地形・地質・土壌調査、植物調査(植物相、植生)、動物調査  
(既存資料、哺乳類、鳥類、両生・爬虫類、昆虫類、陸産貝類)

## 【調査の概要】

### (1) 調査目的

稲尾岳自然環境保全地域とその周辺を含めて各種の自然環境を調査し、この結果を自然状態の保全に役立てることを目的とした。

### (2) 調査対象地域

調査は、稲尾岳自然環境保全地域の 377ha を中心として、その周辺を含めた地域を対象として調査を実施した。

### (3) 調査の内容と方法

調査の実施にあたっては、それぞれの専門分野の学識者からなる自然環境保全地域調査委員会を設置し、調査の項目、方法等の詳細を定め、現地調査を行った。

自然環境保全地域における人為的影響並びに特定の植物群落、動物等各自然環境保全地域を特徴づける要素に着目しつつ調査区を設定し、地形・地質、植物、動物等の特性並びに人為影響の程度を把握するために、以下の調査内容を実施した。

#### 1)気候調査

既存資料により自然環境保全地域及び周辺部の気候的特性を把握した。

#### 2)地形、地質、土壌調査

自然環境保全地域及び周辺部の地形等の特性を明らかにするため、既存資料等により地形発達過程を把握するとともに、地形、表層地質、土壌の分類を行い、その分布を把握した。また、調査区の微地形、土壌層の特性並びに人為影響の程度を把握した。

#### 3)植物調査

自然環境保全地域及び周辺部の植物の特性を明らかにするために、既存資料等により植物相及び植生分布を把握した。また、調査区の植物群落の組成、構造、遷移、動態の特性並びにこれらに対する人為影響の程度を把握した。

#### 4) 動物調査

自然環境保全地域及び周辺部の動物の特性を明らかにするために、既存資料等により動物相(哺乳類相、鳥類相、両生・爬虫類相、昆虫相)及びその分布状況を把握した。また、調査区における哺乳類、鳥類、昆虫類の生息状況及びその生息環境の特性並びにこれらに対する人為影響の程度を把握した。

##### (哺乳類)

- ・聞き込み調査、探索調査、はじき罠による調査、墜落缶による調査、食餌を用いた誘導による足跡の調査を実施した。調査は7月、8月、翌年1月に実施した(聞き込みは11月に実施)。

##### (鳥類)

- ・ロードサイド・センサス調査及び定点センサス調査を実施した。調査は8月に予備調査を2回実施し、9月から翌年1月まで1回/月の割合で実施した。ただし、10月は渡りの時期にあたるため2回実施した。

##### (昆虫類)

- ・任意採集のほか、夜間採集を実施した。調査は9月に実施した。

##### (陸産貝類)

- ・目視による調査及び土壌試料の採取による調査を実施した。調査は8月に実施した。

#### (4) 調査の結果

---

##### 1) 気候調査

- ・稲尾岳自然環境保全地域は肝属山地に位置し、年降水量は約2,500mm以上、春から秋にかけて多雨となる太平洋型降水パターンを示した。

##### 2) 地形、地質、土壌調査

- ・肝属山地には山麓階状に3段の侵蝕小起伏平坦面が認められ、高位から1,000~800m、600~400m、400~200mの高度を示すが、自然環境保全地域は主として、最高位の平坦面によって占められており、花崗岩類には断層や節理が多類発達していた。
- ・自然環境保全地域は、中新世の大隅花崗閃緑岩からなるが、自然環境保全地域の最高峰・枯木岳付近以北では中心相の花瀬型、それ以南には周縁相の大浦型が分布していた。
- ・花瀬型は粗粒で風化しやすく緩傾斜を形成し、大浦型は中~細粒で風化しにくく、急峻な尾根・谷地形を形成しやすかった。

### 3) 植物調査

- ・調査の結果、自然環境保全地域内で確認された植物は、83科149属206種(変種を含む)であった。
- ・植生型は優占種から、イスノキ林(イスノキ - ウラジロガシ群集)、アカガシ林(アカガシ群落)、モミ林(モミ - シキミ群集)を区別したが、下生えの植生には著しい変化はみられなかった。
- ・林床植生は、低い標高では樹木の稚樹や実生等が多く、高くなるにつれて草本が多くなっていた。
- ・胸高直径2cm以上の樹木の個体数と基底断面を考慮に入れて主成分分析を行ったが、上記の3森林型の区別とは矛盾しなかった。
- ・モミ林でモミが卓越階層をつくるほかは一般に林冠が低く、3つの森林型に共通して6~8cm以下の連続した樹木密度の高い層があり、種類組成もほぼ共通していた。

### 4) 動物調査

#### (哺乳類・爬虫類・両生類)

- ・哺乳類については、現地調査において、テン、イノシシ、ホンダタヌキ、ホンダザル、キュウシュウヒミズ、キュウシュウジカ、コウモリ類、ホンダアカネズミ、ホンダヒメネズミの9種が確認された(コウモリ類を1種とする)。
- ・爬虫類については、現地調査において、カナヘビ、ヤマカガシ、アオダイショウ、マムシの4種が確認された。
- ・両生類については、現地調査において、タゴガエル、ニホンヒキガエル、ブチサンショウウオの3種が確認された。

#### (鳥類)

- ・調査の結果、7目21科55種が確認された。
- ・森林(稲尾岳自然環境保全地域)では、ヒヨドリ、エナガ等の29種が確認された。
- ・路傍(内ノ牧林道)では、ヒヨドリ、ミヤマホオジロ等の21種が確認された。
- ・河岸(花瀬大橋)では、イカル、ハクセキレイ等の19種が確認された。
- ・南九州特有のコシジロヤマドリが、稲尾岳の山頂付近(標高900m)と山腹(標高400m)の森林でしばしば観察された。

#### (昆虫類)

- ・調査の結果、12目90科325種の昆虫類が確認された(文献による記録を含む)。
- ・この地域の昆虫相は、北方の霧島山や高隅山と比べて、温帯性昆虫類が少なく、南方の佐多岬よりは亜熱帯性昆虫類が少なかった。
- ・甲虫類については、現地調査において約230種が確認された。なお、文献による記録とあわせると、約400種の記録となった。

(陸産貝類)

- ・鹿児島県大隅半島稲尾岳で採集された陸産貝類を検討した結果、8科18属19種が確認された。

(5) 調査の報告書及び成果物の名称

---

- ・「稲尾岳自然環境保全地域調査報告書 Conservation Reports of The Inaodake Nature Conservation Area, Kagoshima, Japan」(1986年3月 環境庁自然保護局)